

様式第 6 号(第 2 条関係)

委員会等の会議録

1	会議名	第8回愛南町海業推進会議	
2	議題	愛南町の海業の推進について	
3	開催日時	令和7年3月17日(月) 15時00分から16時00分まで	
4	開催場所	愛南町役場本庁3階 大会議室	
5	傍聴者数	3名(内報道3名)	
出席者			
6	委員氏名	稲田 壘、浦崎 慎太郎、大石 常也、大野 甲子彦、 佐伯 謙、澤近 圭亮、関根 麻里、高橋 翔、田中 純樹、 田中 翔、永元 将博、濱 哲也、浜辺 隆博、濱本 涼、 古川 哲也、前田 眞、向田 和広、森 裕之、 ヤング亜由美(代理：猪野 博基)	
7	担当所属	所属名	水産課海業推進室
		担当職員 (職・氏名)	主幹 清水 貴光 室長補佐 尾崎 光弘 係長 清水 陽介 主事 賀屋 啓太、中村 一喜、小山 絵風 地域おこし協力隊 柳田 亮介
8	その他の 出席職員	所属名	
		出席職員 (職・氏名)	町長 中村 維伯 漁場漁村総合研究所 竹山、川上 愛媛県庁漁港課 係長 伊藤 公則 愛媛県庁南予地方局愛南水産課課長 高島 景 愛南町観光協会 山口 憲昭 水産庁計画・海業政策課 成田(オンライン) 上島町役場 産業建設課 櫛部(オンライン) 愛媛県漁業協同組合魚島支所支所長 塩見(オン ライン)
議事内容(次ページから)			

発言者	発言内容
尾崎室長補佐	定刻になりましたので、ただ今から、第8回愛南町海業推進会議を開会します。 開会に先立ちまして、配布資料を確認します。 (資料確認) それでは開会に当たり、愛南町長 中村維伯から御挨拶申し上げます。
中村町長	(開会挨拶)
尾崎室長補佐	ありがとうございました。 本日は、全体を公開会議としていますが、外部記者のカメラ撮影と録音については、ここまでとします。 また、次第にも記載してあるとおり、16時15分からこの会場にて記者ブリーフィングを行います。記者の皆様は是非御参加ください。 事務局の記録用の録音は、議事録等作成のため会終了まで行いますので、御了承願います。 また、委員の皆様におかれましては、発言の際は、挙手していただき、マイクをお渡ししますので、お名前を発言してから、お話しいただきますよう御協力をお願いします。 それでは、次第に沿って進めます。 ここから先は、本会議の規則に従い、座長を水産課長の濱に引き継ぎます。
濱座長	皆様におかれましては、お忙しいところ本会議に御出席いただき誠にありがとうございます。本日欠席の連絡をいただいているのが、後藤委員、李委員、大森委員、山本委員です。 また、本町が海業実装推進委託業務を委託している、一般財団法人 漁港漁場漁村総合研究所からは、竹山様、川上様に、そして、愛媛県南予地方局愛南水産課から高島課長にお越しいただいています。 また、水産庁計画・海業政策課から、成田様にオンラインにて御参加いただいています。 最後に、「海業を推進する地区」として昨年3月に認定された愛媛県の上島町役場 産業建設課 櫛部様、愛媛県漁業協同組合魚島支所 支所長 塩見様にも、それぞれ海業に取り組む地域として情報交換ができればと考え、オブザーバーとして御参

発言者	発言内容
高橋翔委員	加いただいています。皆様御出席ありがとうございます。 それでは、次第に沿って会を進めます。 次第3の 11月13日開催の第7回全体会以降の動きについてです。 初めに、愛南町海業グランドデザインの進捗報告をプロジェクトごとに行っていただきます。 Umidas プロジェクト関係の報告は別に行いますので、まず、「人が繋がる、海から始める。インバウンド！AINAN ツアー生成」プロジェクトについて、高橋委員から報告をお願いします。 なお、質疑応答は最後にまとめますので御協力をお願いします。 今のプロジェクトについて御説明します。現在直接のインバウンドは、そこまで進んではいないのですが、観光の関係者を増やすという観点から御報告します。 令和6年度は、観光庁の補助金申請をして事業を行えればと考えていたのですが、次年度も同じくその方向性で事業を進めたいと考えています。 現在行っている事業が二つあり、一つは、観光庁の補助事業を旅行業者と協力して取得しようと話を進めているところです。 もう一つは、国内の集客キャンペーンがだんだん忙しくなり、関係者の方たちに良い反応を頂き、協力しようと言ってくれる方もいらっしゃるので、そちらと連携をして国内向け旅行商品の取扱いを強化していく方向を考えています。現在は関係者づくりに力が入っているところで、今後につなげていけたら良いと考えています。 また、外国の方から問合せを何件もあり、ホームページに英語表記などがあると、外国人観光客にとって問い合わせやすいと分かったため、今後の情報発信に生かしていきたいと思っています。
濱座長	ありがとうございます。続けて、「愛南町盛旬満喫スタンプラリー」プロジェクトの進捗について、大野委員から報告をお願いします。
大野委員	愛南町盛旬満喫スタンプラリーの企画代行をさせていただきます

発言者	発言内容
	ました TMK スタジオの大野です。今回は、前回よりもスポットを増やして、愛南町内をめぐる観光動線をイメージさせるようなイベントができたのではないかと考えています。 本イベントは、「愛南びやびや広め隊」という、愛南びやびやカツオを広める目的の団体が主催となっているため、「びやびやカツオを1万食食べてもらう」ということを一番の目標に掲げていましたが、6月から12月までの間に累積で1万760食を達成しました。また、参加した観光客からも、カツオを求めて訪れていることがよく分かるような感想を寄せていただきました。 このイベントのおかげで、ただ単に立ち寄って終わり、というわけではなく、次のスポットを目指し、様々な場所を知ってもらうことで、もう一度スタンプを集めに来てくれたり、愛南町に好意的な感想が並んだりしました。一過性ではなくリピーターができるようなイベントにできて良かったと感じています。 一方で、課題点については、今回居酒屋やスナックなどをスタンプの対象にしましたが、子供を連れて行きづらいためうまく結び付かなかったという点があります。来年度はこういった点も修正して、このイベントを続けていきたいと考えています。 また、今回初めて、デジタルスタンプラリーというシステムを試験的に取り入れたところ、デジタルでの参加者は少ないものの、データが取りやすいというメリットが明らかになりましたので、次回はデジタルのみで実施したいと考え、業者選定をしているところです。
濱座長	ありがとうございます。続けて、「愛南町ブルーカーボン創出」プロジェクトの進捗について、海業推進室の清水係長から報告をお願いします。
清水係長	愛南町ブルーカーボン創出プロジェクトの進捗状況について説明します。J ブルークレジットの認証は、愛南町ブルーカーボン推進協議会という団体が主に活動している事業で、令和5年度は、家串海域だけで5.9トンの認証を得ました。これで前例ができたので、令和6年度は、この手法を用いて、より広い範囲で申請をしてより多くの認証を得ることを考え、家串に加えて油袋と平碇と柏崎の4海域で申請し、34.8トンの認証を得る

発言者	発言内容
	ことができました。 こちらは、公募をかけ、この取組に賛同してくれる企業に、1トン当たり約5万円で購入していただくものです。第1回の公募期間は終わりましたが、随時、第2回、第3回と公募期間がありますので、様々な企業に買っていただけるように努力していきたいと考えています。 藻場回復事業、ウニッコリー生産は、愛南の藻場を守る会が中心となって行っている事業で、令和6年度は、ウニ駆除作業を、5月から12月にかけて20回程度実施しています。こちらの事業は、藻場の回復というストーリーを持ったウニッコリーという商品になっていますので、このストーリーとともに、ウニッコリー生産から食べてもらうまでを一つの体験コンテンツとして提供できたらと考えています。町外の人に体験していただく前に、まずは身近な人たちに、モニターという形で体験してもらうことを数回繰り返し、ブラッシュアップして、ゆくゆくは町外の方たちに、体験していただこうと考えています。たちまちになりますが、3月19日と20日の2日間、最初のモニターを実施しようと考えています。 この事業は、ただ行うだけではなく、事業を知ってもらうための情報発信として、「ディスカバー農山漁村の宝アワード」や「三浦保環境賞」に応募しました。ディスカバー農山漁村の宝アワードは地方奨励賞、三浦保環境賞は愛媛県奨励賞を受賞しています。 その他、磯焼け対策全国協議会、気候変動適応全国大会で講演の機会を頂くなど、PR・情報発信することで、愛南町での取組を知ってもらうような活動も行っています。
濱座長	ありがとうございます。続けて、「愛南ぎょしょくツーリズム」プロジェクトの進捗について、海業推進室の清水主幹から報告をお願いします。
清水主幹	まず、ぎょしょくツーリズムですが、全国有数の水産基地愛南の水産業を存分に味わう体験プログラム、ぎょしょくツーリズムを構築することでぎょしょく発祥の地愛南をPRすること、サマースクールなどの教育旅行や社員研修などの受入れることで交流人口増加と人材育成を図ることを目的として、試行ツアーを実施しました。

発言者	発言内容
	令和6年9月には久留米大学と愛媛大学、11月には松山大学の学生に、マダイ養殖場見学や養殖マダイを使った料理教室などを体験していただいています。このモニターツアーの実施後には、参加者と体験提供事業者へアンケートを実施し、そのアンケート分析を、漁村総研に行っていただきました。 分析結果によると、愛南ならではの非日常体験、景観、食といったコンテンツは人気でしたが、課題の抽出と改善、検討の結果から、説明方法や時間配分、関係者への配慮などの問題も明確になりました。これらの結果を基に令和7年度には、プログラムの深化、実装などをUmidasで実施していく予定です。 また、先ほどのユニッコリーとの連携として、清水係長から告知がありましたユニッコリーの体験コンテンツモニターを、3月19日と3月20日に実施する予定です。皆様の中で参加してみたいという御希望がありましたら、チラシを用意していますので、お帰りの前に清水係長のところまでお越しください。
濱座長	ありがとうございました。これら四つのプロジェクトについて、質問等ありましたらまとめてお受けします。
委員一同	(質問なし)
濱座長	それでは、一般社団法人Umidasの設立について、設立時社員の一人である愛南漁協の澤近委員から説明をお願いします。
澤近委員	Umidasの法人化について、名称は「一般社団法人Umidas」になりました。名称の由来は、海、モチベーション、イノベーション、デザイン、愛、サステナブルの頭文字を取ったものです。 今まで1年8か月の間、皆さんに集まっただき、これから愛南町をどのようにしていくかという話をした中で、愛南町にあるもので、町全体が同じ思いで取り組めるものは何かという話題になり、ぎょしょく事業ならば愛南町民皆で関わることをできるのではないかと考えたことが発端です。 今まで教育分野では、ぎょしょく授業という形で、教育と漁業を掛け合わせた様々なコンテンツを行いました。その中で、出前授業という形で、東京など町外、県外にもPRとして行きました。その活動を愛南町に来ていただくという方向に昇華させてはどうかと思い、教育と観光を掛け合わせた形で、愛南ぎょ

発言者	発言内容
	しょく体験プログラムを提案させていただきました。 以前、委員数名で岩手県大槌町に視察に行った際、子供たちと海との関わりが昔に比べて少なくなっていることを実感しました。それを愛南町に置き換えると、愛南町の子供たちも、やはり海から離れています。川や海で遊んでこなかったような子供たちへのアプローチする拠点として、今後 Umidas が機能すれば良いと考えています。 体験プログラムも同様に、小学1年生から参加できるものから、中学生以上の方まで参加できるようなプログラムを15パターンほど作成し、実施していきたいと考えています。 また、愛南町には旅行会社がないため、今後手続を進める部分や協力団体との提携も考えていかなければなりません。合宿等で様々な大学から愛南町に来ていただき、モニターツアーを行ってブラッシュアップをしています。 愛南町は、観光資源として施設の充実を図り、自然も、おいしい食のブランドもあり、温泉も三つあります。いろいろそろっているのにアピールできていないということは、うまく魅力を発信できていないのだと思います。飲食店に関しても、共通の郷土料理や、愛南の食材を使ったものが、いろいろな店で食べられるはずですが、実際は食べられていないことが残念だと感じています。このようなことについて、教育・観光・飲食と海業とが連携していけば、何かを生み出し発信できるのではないかと考えています。 また、県や町、農協、漁協、森林組合や観光協会、商工会は、メインになるプレーヤーではなく、協力者という位置付けにしています。これらの事業を進めていく中で、「漁協だけがやれば良い」、「農協がやれば良い」、ということではなく、例えば、漁協であれば、漁協が動くのではなく、各協議会のメンバーが動く。協議会も愛南漁協の中だけでも11団体あり、加入者は210人ほどいます。その中で、やりたい人が手を挙げてやっていただけたら、もっと深く広く実施できるのではないかと考えています。 協議会では、4月から6月に総会があるため、海業推進会議としてそちらに出向いて、協力していただけないか案内をしながら、町全体で広げていきたいと考えています。 最後に、Umidas の組織体系をお話します。Umidas は、社員総会から始まり、人材リンクでいろいろな協議会の方あるいは町

発言者	発言内容
濱座長	民の方に参加していただいて、愛南町全体が盛り上がるような活動に取り組んでいきたいと考えています。 ありがとうございました。今の説明について質問等ありましたらまとめてお受けします。
浜辺室長	私もこの件について発言させていただきます。11月13日の海業推進会議で、Umidasプロジェクトの方向性について御紹介しました。 その後、12月4日に、設立準備委員会を開催し、前田委員に座長をお願いし、議論を引っ張っていただきました。 全8回で、澤近委員がおっしゃった内容等の中身を議論し、完成したものが、定款の事業内容や設立目的、活動基準になります。 この後、意見交換の時間もあり、この中には設立準備委員会に参加されていた委員もいらっしゃいますので、設立のための議論の中で、どのように考えていたか御発言いただきたいと考えています。
濱座長	そのほか、よろしいですか。 今後の海業の推進について、海業推進室の浜辺から説明します。
浜辺室長	今後の事業の推進についてということで、冒頭挨拶にありましたように、1年8か月間海業推進会議の事務局を務めさせていただき、来年度からどのように進めていくのか、なかなかこの場では意見が出しづらいというお話もありましたので、運営委員会やスピノフ会など、いろいろな仕掛けを用意して、皆様と意見交換させていただいたところになります。 海業推進会議だけでなく、海業推進室、そして町内の海業の取組というところで、今年度の出来事を御紹介します。2024年は、8月に大野委員がマダイ釣り体験イベントを企画し公民館で実施したり、後藤委員がいよぎんビジネスプランコンテストで優秀賞を受賞したり、様々なプロジェクトが立ち上がりました。 先ほどインバウンドのプロジェクトでも、高橋委員がお話されたように、これからのこともディスカッションしたり、そ

発言者	発言内容
	ういったことが今後広がっていくことも、一つの海業の形だと考えています。 今後の海業推進会議については、基本的な構成を変えるつもりはありません。 来年度、6月中旬に第9回海業推進会議の開催を考えていますが、これについては来年度御案内させていただこうと思っています。 2023年度は、グランドデザインの策定というところで議論を煮詰めてきました。2024年度は、実装をテーマにして、具体的な行動とプロジェクトの深化をテーマに、特にUmidasについて様々な議論を重ねたほか、先ほど御紹介したようなイベントプロジェクトが立ち上がっていきました。 2025年度に関しましても、実装2.0ということで、引き続き、この海業推進会議の場だけではなく、様々な団体と連携し、特にUmidasが中心的な役割を担う、行政ではやりきれない部分を民間団体で突破していくようなプロジェクトの拡大、深化を進めていきたいと考えています。 そのときに、一般社団法人Umidasのアドバイザーとしての取組について、海業推進会議が確認したり支援したりすること、あるいは、更なるプロジェクトを企画していくこと、さらに、今申請している地方創生交付金が、愛南町にどれほどの効果があるのか検証することや、事業内容に対する提言などを行っていくことが来年度のテーマになると思っています。 澤近委員からも先ほど御紹介いただきましたように、Umidas人材リンクへの参加協力、これは皆様に是非積極的に取り組んでいただきたいと考えているところです。
濱座長	ありがとうございました。今の説明について、質問等ありましたらお受けします。
委員一同	(質問なし)
濱座長	それでは、最後に意見交換を行いたいと思います。全体を通して疑問点や質問、御意見や感想などお話しいただければと思います。 プロジェクトについて質問をさせていただきます。 まずは、インバウンド愛南ツアー生成事業につきまして、高

発言者	発言内容
	橋委員、今年の夏に鹿島に渡航した延べ人数と、外国人の割合は報告できますか。
高橋委員	外国人の割合は1%に満たない位だと思います。ただ、問合せは受けていることから、彼らが愛南町の情報を見つけられていないことが1番の課題だと思っています。しかし、情報を掲載すると反応はあるため、発信の頻度を高めることで解決できると考えています。
濱座長	次に、盛旬満喫スタンプラリーについて大野委員、スタンプラリーのコンプリート達成者は延べ何名になりますか。
大野委員	コンプリート達成者は4名で、松山、宇和島、新居浜の方で、県外の方はいませんでした。
濱座長	次にブルーカーボン創出プロジェクトですが、今回4海域に拡大しましたが、今後これ以上の拡大は難しいのでしょうか。
清水係長	真珠養殖をしている海域はほかにもありますが、今回は、真珠養殖いかだがあり、それに引っ掛かる海藻を捨てる作業をしているいかだと同じ湾内にある所を申請しており、現状それがこの4海域しかありませんでした。今後、認証機関の審査基準が緩和されるのであれば、4海域以外にも、例えば網代や魚神山、御荘海域でも申請を拡大できないかと考えているところです。
濱座長	最後にぎょしょくツーリズムについてですが、令和6年度には、先ほど紹介いただいたモニターがありましたが、令和7年度以降について、今現在ツアーの申込みや、こちらから呼びかけてモニターを実施するようなプランはありますか。
清水貴主幹	来年度ぎょしょく事業を実施してほしいという要望が、今のところ1件だけあります。これは今年度も実施した宇和島圏域の子ども観光大使の要望で、実施する予定で検討しています。
濱座長	今のような質問でもかまいませんが、そのほかの皆さん、何かありませんか。

発言者	発言内容
田中純委員	Umidas の組織体系のところで、事業部門があると思うのですが、私も企画したいですし、できることなら参加したいと思っています。どうしたら参加できるのでしょうか。澤近委員の発表では協議会単位の話をしてもらいましたが、一般の人にも参加してほしいと考えているのならば、一般の人が自由にもっと簡単に参加できる仕組みを考えているのですか。
浜辺室長	田中(純)委員の言う参加とは、実施者側として体験提供する側になりたいという意味の参加で合っていますか。
田中純委員	そうです、企画を考えること以外にも、ガイド人材育成についても、自分自身もガイドになりたいし、人材育成もしていきたいと思っています。
浜辺室長	どうすれば良いかは今後 Umidas に御相談いただくとして、企画を持ち込んで Umidas と連携して実施するという形が良いと思います。
田中純委員	企画や人材育成を行うに当たって、私自身はボランティアでしたいと思っていますし、できると思っているのですが、実際、参加者が全員ボランティアではできないと思っています。 行政と同じように年ごとに事業計画を立てていくのか、もっと気軽にスピーディーに事業を実施するのか分かりませんが、事業の進め方について、行政のように予算の使い方に制限がないならば、様々な企画ができるのではないかと思います。
浜辺室長	Umidas も普通の会社と同じく、事業計画を定めて、その事業にかなったものであれば実施していくというスタンスだと思います。内容にもよりますが、いきなり「こんなことを考えている」と軽く申し込まれても、すぐに対応することは難しいと思います。 ただ、具体的な内容が決まっている企画へ協力、支援してほしいという話が起点になって展開していくのではないかととも思います。
濱座長	その他、何か意見はありませんか。

発言者	発言内容
前田委員	今の件に関して言うと、様々なニーズを多く寄せてもらうことは可能ですが、一緒にブラッシュアップしながら事業として固めて実施するまでに少し時間が掛かるかもしれないと思っています。 中間支援というものは、基本的には様々な相談を受けながら、どうすればできるかということと一緒に話し合うような場であってほしいと思います。 しかし、何でも実現できるわけではないため、その点では内容を精査し、一緒に議論しながら進めていくような存在として、Umidasがあれば良いと思っています。たくさん相談してもらうことは良いことですが、事業として成立させる部分については絞り込みが必要です。 職員二人だけに任せるわけではなく、様々な人材が関わって一緒に考えていくような運営になると、本当の意味での中間支援組織になっていくのだらうと思いました。
濱座長	活発な議論、ありがとうございました。それでは、議事次第のその他に移ります。本日は特に事務局からの発表はありません。委員から何か御発言がありましたら承ります。
浜辺室長	事務局からの発表がないとありましたが、一件お知らせがあります。年度末ですので、来年度役職が変わる、来年度の委員を辞退したい、この人を推薦したいなどのお話がありましたら、会議の直後または後日、事務局までお知らせいただければと思います。よろしくお願いします。
濱座長	そのほか、何かありませんか。
委員一同	(質問なし)
濱座長	それでは以上で、その他を終わります。進行を尾崎に戻します。
尾崎室長補佐	皆様、本日はありがとうございました。 最後になりますが、本日の配布資料と簡単な議事概要は、後日公表する予定です。

発言者	発言内容
	なお、冒頭にも申し上げましたが、この後 16 : 15 からこの会場にて、一般社団法人 Umidas と愛南町による記者ブリーフィングを行います。記者の皆様におかれましては是非御参加ください。 以上をもちまして、第 8 回海業推進会議を終了します。来年度も引き続きよろしくお願いします。 本日は御参加いただき誠にありがとうございました。